

ダム事業に関するプログラム評価 骨子案 説明資料

平成14年11月

懸命な水防活動もあり、最小限に食い止められた被害

- 平成10年9月台風5号により利根川で漏水などの堤防被害が76箇所発生 -

- 約3,000人の水防団員が緊急出動 -

利根川中流部の群馬県板倉町及び埼玉県北川辺町では、76箇所のうち35箇所が集中して発生。

○台風5号による堤防の被害状況

水系名	河川名	災害箇所	内容
利根川水系	利根川	48箇所	のり崩れ 1箇所 漏水 37箇所 陥没 10箇所
	渡良瀬川	20箇所	漏水 20箇所
	江戸川	4箇所	漏水 4箇所
	小貝川	2箇所	のり崩れ 2箇所
	霧ヶ浦	2箇所	のり崩れ 2箇所
計		76箇所	

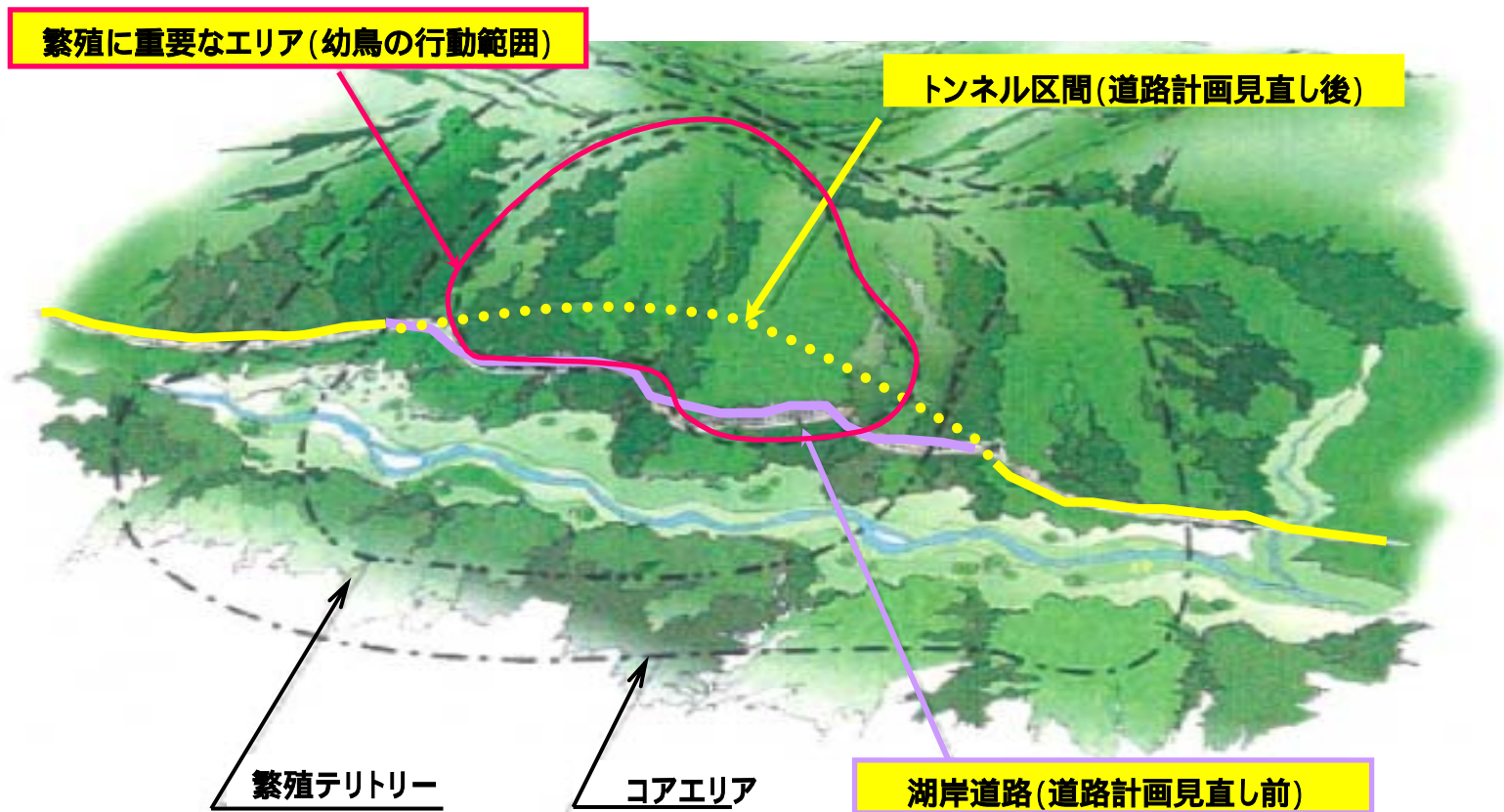


●漏水箇所
 ●のり崩れ箇所
 ●陥没箇所
 図中の数字は箇所数



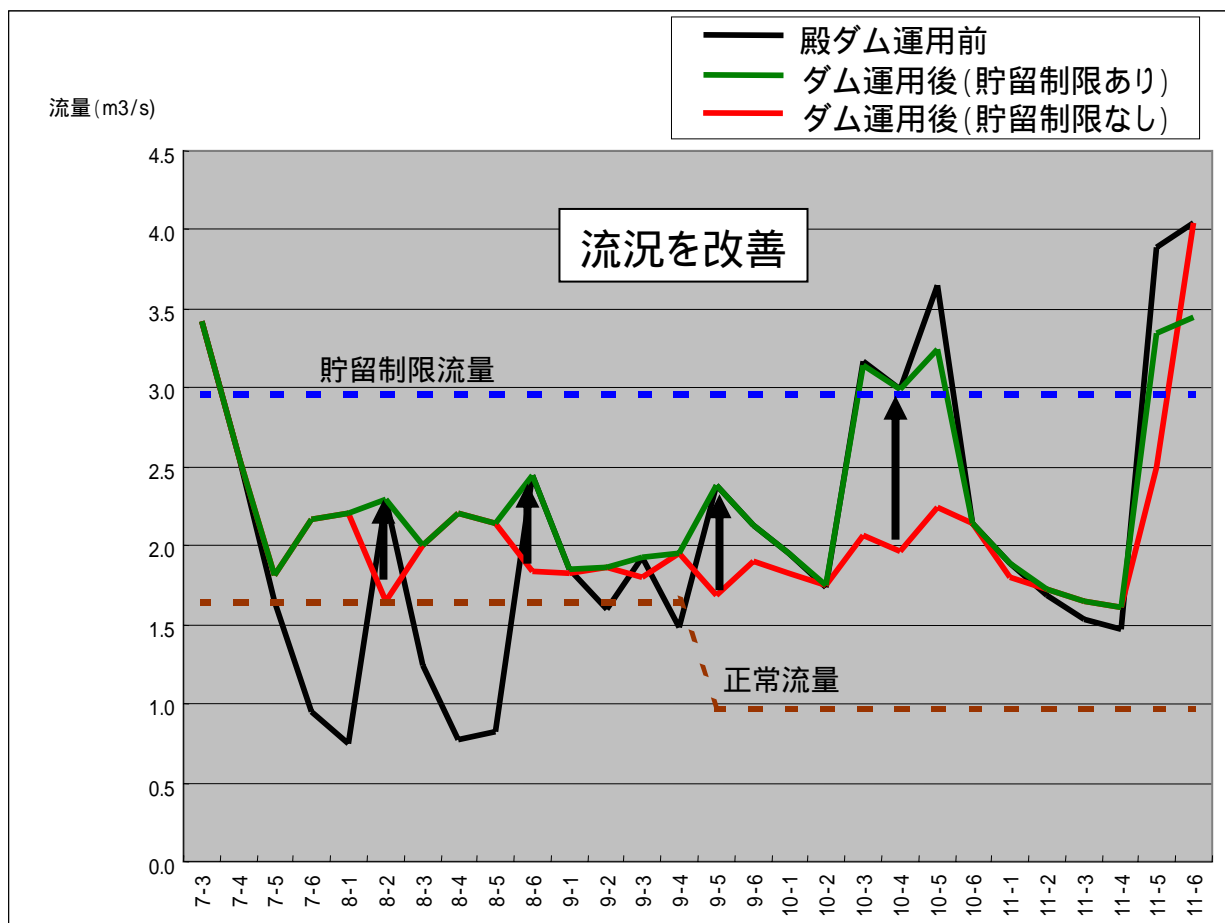
付替道路の変更など計画の柔軟な見直しにより、 自然環境への影響を回避、低減

トンネルの採用により地形改変と自然環境への影響を最小化



貯留制限を設けることでダム下流の流況を改善

流況改善の事例



正常流量時の流況(イメージ)



貯留制限流量時の流況(イメージ)



< 貯留制限を設けることにより >

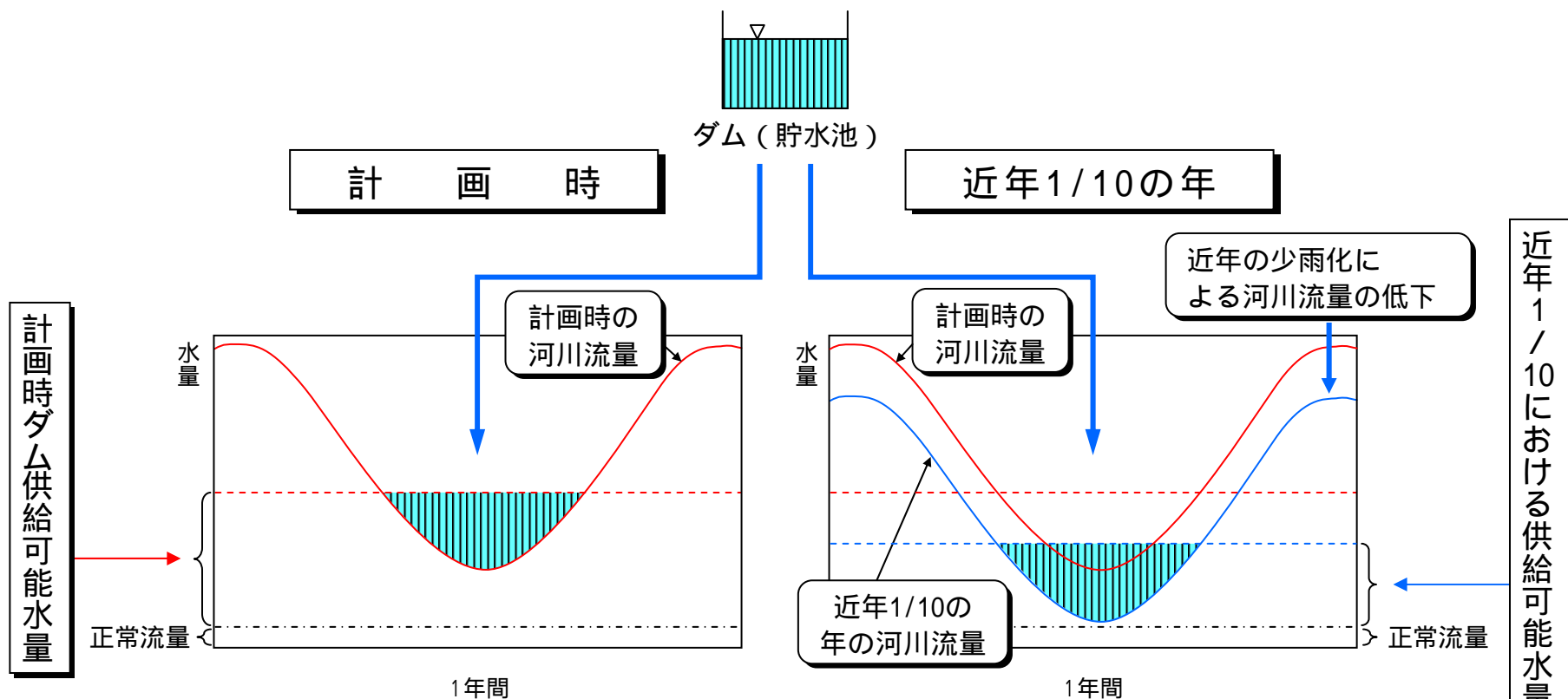
河川流量の平滑化を回避

ダム運用前後における流況の改変を減少

⇒ ダム下流河川の自然環境に与える影響を低減

近年の少雨化により河川流量が低下し、ダムの実力が低下

近年1/10における供給可能水量の算出（イメージ図）



注： [shaded green area] のゾーンの面積は等しいものとする。

近年の少雨傾向により河川流量が減少したことで、同じダムから同量の補給水を受けても安定的に取水できる水量は目減りする。

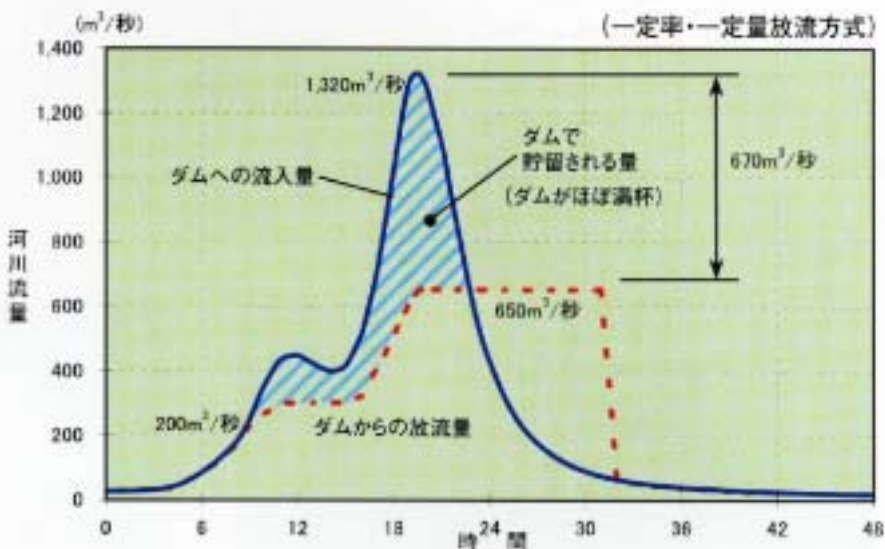
ダムの操作規則が将来の計画規模の洪水を前提としている場合、 中小洪水では、ダムの洪水調節容量が 百パーセント有効に使われない場合もあり得る



下流河川の整備状況を勘案したダムの暫定操作規則の実施

ダムからの放流量を小さく設定することで、中小洪水でも早期効果を発現する一方で、対応できる洪水規模が低下

100年に1回程度の確率で発生する洪



20年に1回程度の確率で発生する洪

